



文部科学省「脳科学研究戦略推進プログラム」

アンケート調査報告

【調査要領】

1. 調査目的

「脳科学研究戦略推進プログラム」第3回公開シンポジウム『未来を拓く脳科学研究』に対する参加者の印象や評価を調査し、今後のシンポジウム・アウトリーチイベント開催の参考とするため。

2. アンケート対象者

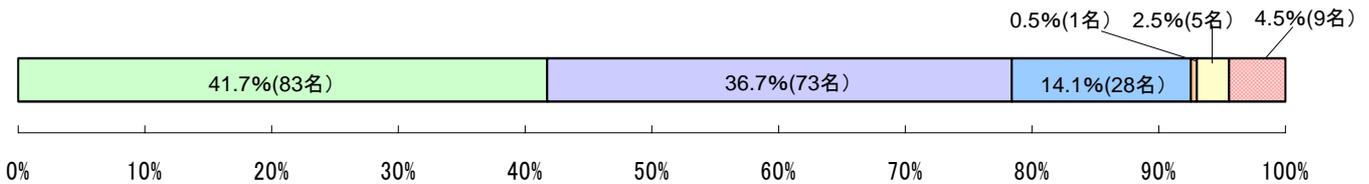
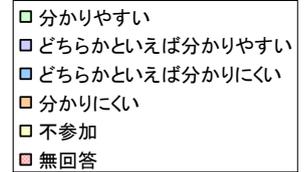
シンポジウム参加者330名にアンケートを配布、うち199名から回答を得た(回収率60.3%)。

中学生・高校生	10名
大学生 医学系 13名 理工学系 16名 心理学系 4名 教育系 1名 その他 8名	42名
研究者・医者	30名
企業勤務	52名
病院・施設勤務	16名
非営利団体	10名
アルバイト・フリーター	1名
主婦	8名
家事手伝い	1名
その他	25名
無回答	4名

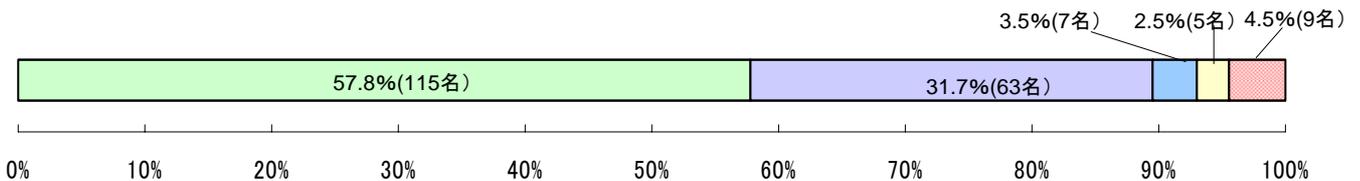
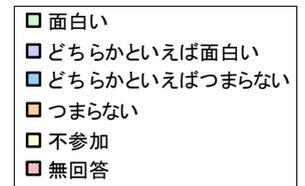
【アンケート結果】

1. 講演について

A. 分かりやすかったですか。



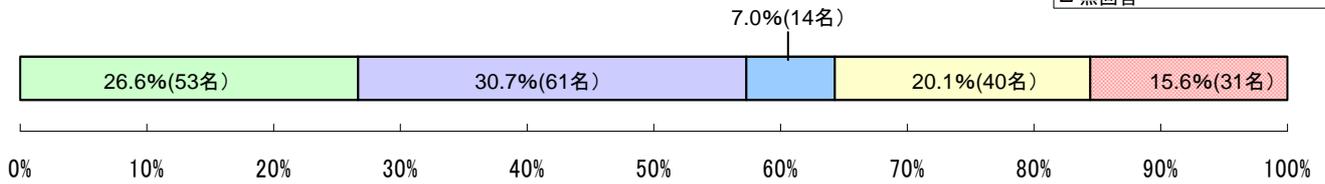
B. 面白かったですか。



2. ポスター展示の内容について

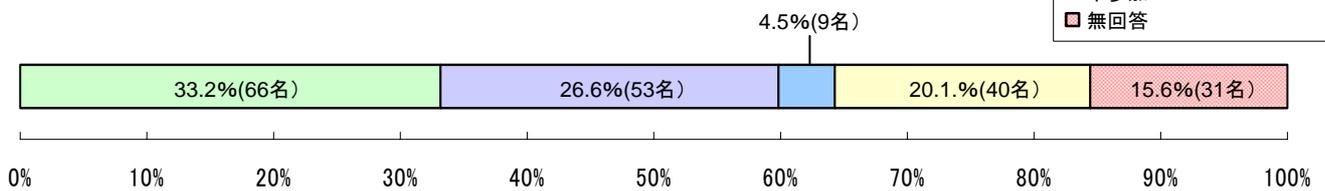
A. 分かりやすかったですか。

- 分かりやすい
- どちらかといえば分かりやすい
- どちらかといえば分かりにくい
- 分かりにくい
- 不参加
- 無回答



B. 面白かったですか。

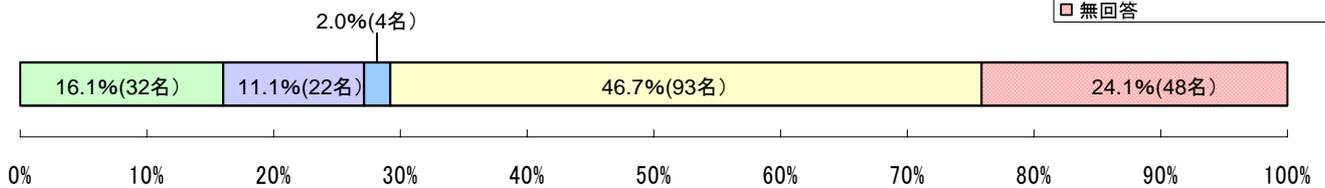
- 面白い
- どちらかといえば面白い
- どちらかといえばつまらない
- つまらない
- 不参加
- 無回答



3. 体験コーナーの内容について

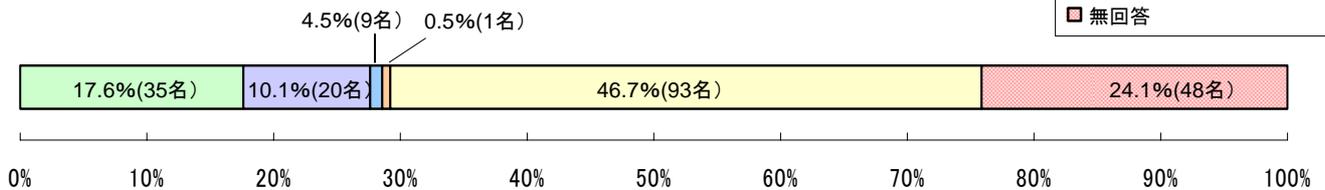
A. 分かりやすかったですか。

- 分かりやすい
- どちらかといえば分かりやすい
- どちらかといえば分かりにくい
- 分かりにくい
- 不参加
- 無回答



B. 面白かったですか。

- 面白い
- どちらかといえば面白い
- どちらかといえばつまらない
- つまらない
- 不参加
- 無回答



4. シンポジウムに参加された動機は？(複数回答可)

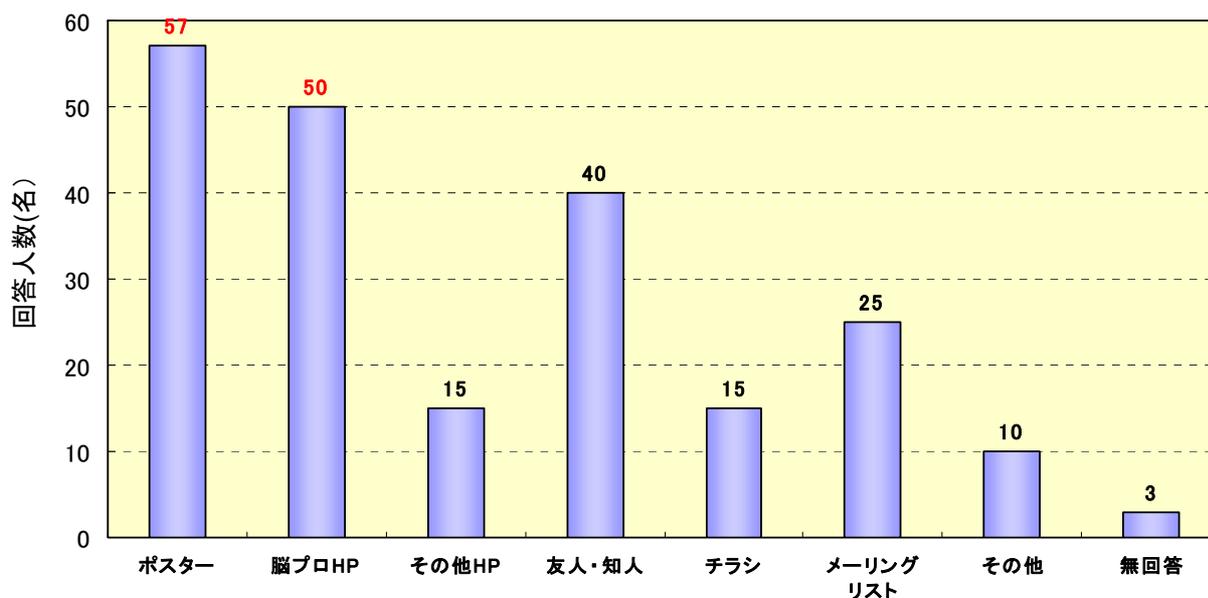
項目	選択人数	比率	昨年度比率
科学全般に興味がある	76名	38.2%	40.7%
脳に興味がある	144名	72.4%	76.1%
内容が興味深かった	59名	29.6%	26.8%
講演者に関心があるため	24名	8.0%	16.3%
知人に誘われて	16名	12.1%	8.6%
仕事に活かすため	50名	25.1%	21.1%
その他	11名	5.5%	3.8%
無回答	4名	2.0%	0.0%

※比率は各項目の選択人数/アンケート回答者数。

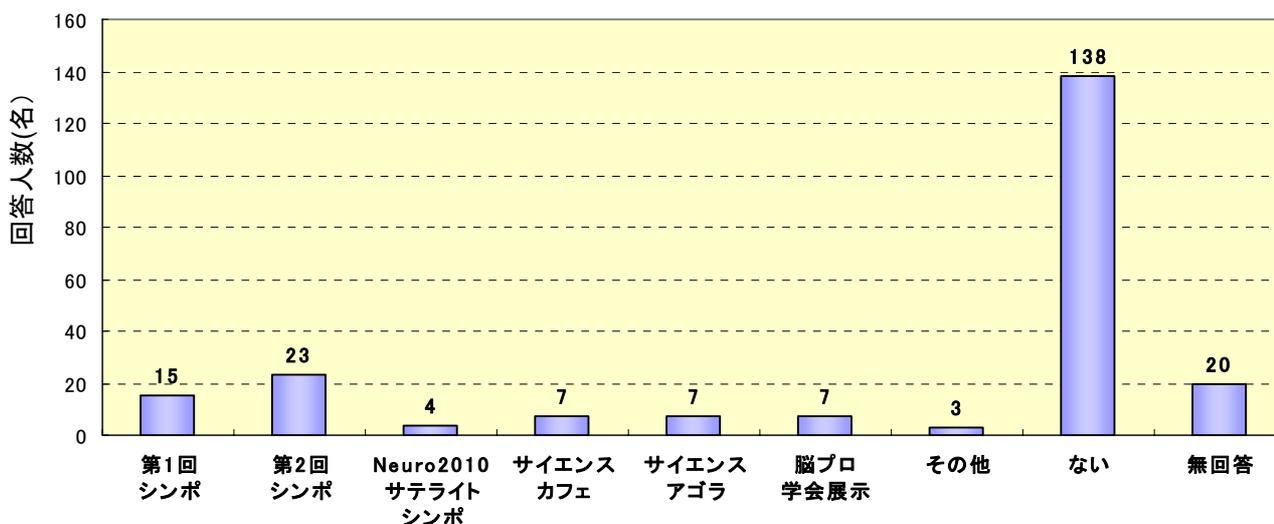
「その他」の回答：

- ・クラブ活動 (2)
- ・長男が講師、次男が医大生 (1)
- ・研究を進める参考に (1)
- ・情報収集のため (1)
- ・認知症に興味がある (1)
- ・学校の掲示板で見て (1)
- ・神経科学に携わっている (1)
- ・研究所で脳プロの事務に携わっている (1)
- ・記述なし (2)

5. 本シンポジウムをどちらでお知りになりましたか？(複数回答可)



6. これまでに脳プロのイベントに参加されたことはありますか。(複数回答可)



7. 今後、どのような内容の講演を聞いてみたいですか？(複数回答可)

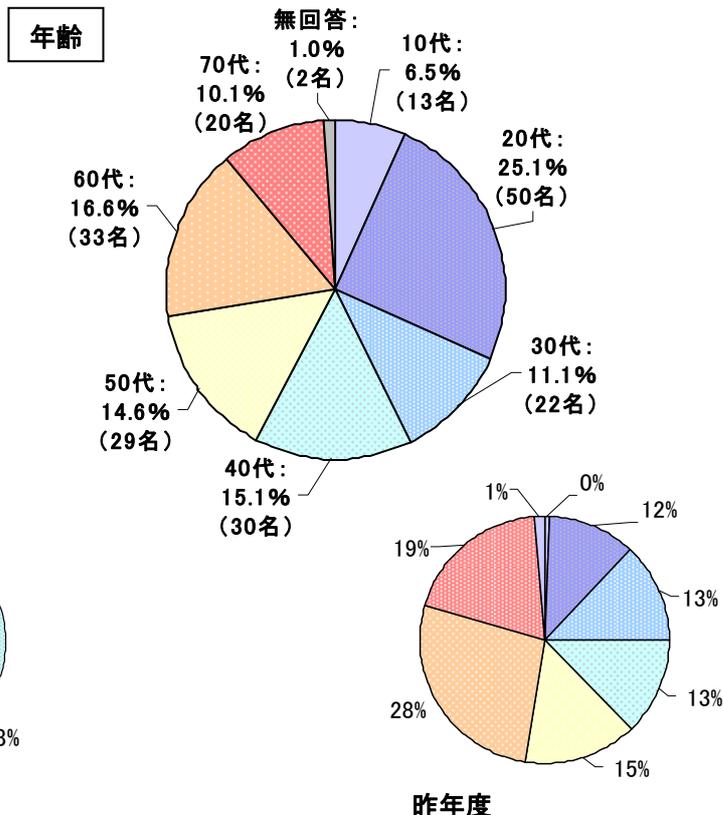
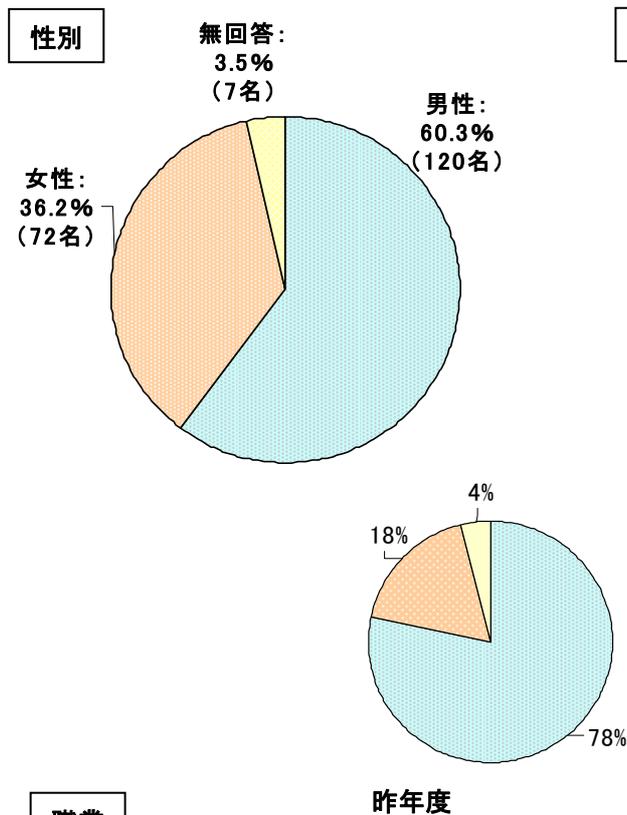
項目	選択人数	比率	昨年度比率
脳の仕組みや働きについて	96名	48.2%	55.5%
脳に関わる病気の治療や予防	111名	55.8%	44.0%
心と脳の関係	126名	63.3%	56.5%
今後の脳科学の展望	89名	44.7%	45.5%
社会にどのような影響を与えるか	56名	28.1%	24.4%
その他	12名	6.0%	4.8%
無回答	6名	3.0%	1.0%

※比率は各項目の選択人数/アンケート回答者数。

「その他」の回答：

- ・脳機能測定技術の最先端(3)
- ・BMI関連(2)
- ・感覚系との相関関係(1)
- ・類人猿の脳との機能比較(1)
- ・アルツハイマー病予防薬(1)
- ・老いる前に日常生活で気をつけること(1)
- ・TVゲームなど、従来にない行動と脳との関係(発達、機能の変化など)(1)
- ・認知神経科学(1)
- ・経済学、方角、社会科学との連携研究に関する話(1)
- ・技術と倫理、教育(1)

8. 性別、年齢、ご職業について教えてください。



- 「その他」の回答:
- ・無職、求職中(4名)
 - ・定年退職者、年金生活者、化学系会社OB(6名)
 - ・研究費を取り扱う事務(1名)
 - ・リハビリ中(1名)
 - ・記述なし(13名)

項目	人数	比率	昨年度比率
中学生・高校生	10名	5.0%	0.0%
大学生・大学院生	42名	21.1%	9.1%
医学系	13名		
理工学系	16名		
心理学系	4名		
教育系	1名		
その他	8名		
研究職	30名	15.1%	28.2%
会社員・公務員	52名	26.1%	24.9%
医療・福祉従事	16名	8.0%	1.0%
団体職員	10名	5.0%	4.8%
アルバイト・フリーター	1名	0.5%	1.0%
主婦	8名	4.0%	3.3%
家事手伝い	1名	0.5%	—
その他	25名	12.6%	15.3%
無回答	4名	2.0%	12.4%

※比率は各項目の人数/アンケート回答者数。

9. 印象に残った「こと・もの」はありましたか？ご意見、ご要望をお願いします。

ご感想

<基調講演、イベント全体について>

- ・今後の研究に期待します、頑張ってください。(4)
- ・先生方の説明姿勢が良かった。素人にも正面から向き合って、丁寧に説明する熱意に敬意(3)。
- ・BMIの実際・最新の現状を講演、ポスター、体験コーナーで知ることができて勉強になった。興味深かった(2)。
- ・また、機会があれば参加したい(2)。
- ・高校生の参加が良かった。研究がより身近になるため(2)。
- ・脳科学の最先端・動向を無料で知ることができて良かった(2)。
- ・BMIが、早く一般の患者へ適応できることを望みます(2)。
- ・研究がうまく進んできた感じがします。これからも、注目します。
- ・理解できることや、元から興味のある分野の講演は入り込みやすく、一般的にある程度その辺を意識された講演内容で、大変面白かった。
- ・自分が興味ある領域は分かった(単語などが理解しやすい)が、勉強していない領域は説明が早すぎて追いつけなかった。
- ・とてもおもしろく、勉強になりました。
- ・難しくて理解できなかった。
- ・難しい話を、分かりやすく講義いただきまして、有難うございました。
- ・最先端のお話を聞いて、ドキドキしました。
- ・脳科学の進歩を実感しました。
- ・科学の発達で、私が高齢になった頃には、何らかの新しい医療方法ができていることが楽しみです。研究者のご努力に感謝します。
- ・自分のこれからは役にたい。
- ・講演時間がコンパクトで、飽きずに聞くことができた。
- ・高齢者のケアをしている看護師ですが、高齢者に個人差(認知症、情緒面、頭脳、思考、判断力)が大きいことに不思議を感じます。
- ・会場が涼しくて快適だった。
- ・スタッフの優しい対応、有難うございました。
- ・脳科学と教育について、興味がありました。
- ・BMIについてもっと研究したいと思った。
- ・脳は努力によって回復することが可能というのが、印象に残った。
- ・脳内で起こっている現象を調べる方法が、発達してきていると感じました。しかし、原因やそれに対処する方法は、まだまだ解明されていないことが分かりました。
- ・神経回路と脳の関係研究についての話が興味深かった。
- ・貴重な講演でした。

<講演1について>

- ・機能回復型BMIの脳卒中治療への応用現場の実情報告と今後の展望が印象に残った(4)
- ・BMI研究を利用してセカンドライフで社会生活ができることが興味深かった。
- ・ヒトの脳の電気信号を「補助」できるところまで、技術が進歩していることに驚いた。
- ・肢体不自由の方々へのリハビリとして、「上手くイメージできる事で、トレーニングを行えば筋活動(筋電)を誘発できる」事を知り、肢体不自由の方々への生活の質をあげる可能性を感じました。仕事に活かせたらと思います。
- ・里宇先生の、直流電流によってBMIのパフォーマンスが変わることが、興味深かった。
- ・一般向けには、少し難しすぎる。
- ・身近で現実な話題で興味深かった。

<講演2について>

- ・伊佐先生講演、Optogeneticsを用いた脳の研究の説明が興味深かった。(2)。
- ・一般向けには、少し難しすぎる(2)。
- ・視覚に関する研究が興味深かった。
- ・話すスピードが少し速く、専門的で聞き取りづらかったが、ユーモアを交えたお話で良かった。

9. 印象に残った「こと・もの」はありましたか？ご意見、ご要望をお願いします。

ご感想

<講演3について>

- ・定藤先生の講演が特に興味深かった(5)。
- ・イメージング技術の発達が脳科学の可能性を広げる為に、必須であることが印象に残った(2)。
- ・身近な事柄で面白かった(2)。
- ・痛みの共感の脳の活性の相違点を詳しく聞きたかった。
- ・長年の課題であった職場・関係者の動機付けについて示唆を得た。
- ・「戦争」も利他的行為であるというお話は興味深かったです。脳科学・人文・社会科学で、人間同士が殺しあうことなく良い社会をつくれる仕組みのようなものを考えていけると良いと思いました。それは倫理とか、道徳になるのだと思います。
- ・寄付も戦争も向社会行動である、ということが、印象に残った。
- ・社会的報酬についてのお話が興味深かった。

<講演4について>

- ・アルツハイマー病の説明が、コンパクトにまとめられていて、とても分かりやすく、面白かった(7)。
- ・アルツハイマー病についての講演が特に興味深かった(5)。
- ・今後の高齢化社会に向けて、科学的解明や新薬の開発に期待する(2)。
- ・マイクの使い方、話のスピード、明瞭で非常に聞きやすかった。他の講演者の方にも、是非、見習って欲しい(2)。
- ・メタボ・糖尿病がアルツハイマー病の原因かもしれないと思うと、健康でいようと思いました。
- ・グルタミンとGABAのバランス→GLT-1、GLASTによる診断→脳の病気とその診断という進歩を期待します。
- ・アミロイドペータペプチドの代謝に関して興味がありました。
- ・身近にアルツハイマー病の患者がいますので、とても参考になりました。
- ・アルツハイマー病の危険因子に糖尿病が印象に残った。
- ・アルツハイマー病と認知症の問題についてのお話が、印象に残った。
- ・アルツハイマー病研究の進展を知ることができた。
- ・疾患治療、障害予防などが中心であったが健康を維持する脳のメカニズムについても注目して欲しい。
- ・予防とアルツハイマー病にならないための研究が考えられると思います。
- ・身近で現実な話題で興味深かった。

<体験・ポスター展示について>

- ・ポスターセッション、体験コーナーが良かった。
- ・コモン・マーモセットの認知機能を調べる方法の紹介が印象に残った(2)。
- ・うつ病についてのポスター、および体験コーナーが興味深かった。
- ・ポスター展示、B-17ブレインスイッチに興味を持った。
- ・ポスターでの説明がやさしく、丁寧でした。
- ・時間割引と社会行動が興味深かった(せっかち度)
- ・脳との光通信(東北大・八尾先生)のポスターが印象に残った。
- ・「ニホンザルにおける社会的文脈の神経表象」の発表者の方が、本当に熱心に説明してくださり、素晴らしかった。

9. 印象に残った「こと・もの」はありましたか？ご意見、ご要望をお願いします。

ご要望・ご提言・ご質問

<シンポジウムの内容について>

- ・早口で聞き取りづらいこともあり、残念だった。マイクの使い方、話のスピードを工夫して欲しい(2)。
- ・脳のことであれば何でもOKといった感じでしたが、もう少しテーマを絞って欲しかった。
- ・講演、ポスター展示の時間が短い。
- ・スピーカーの人数を増やして欲しい。
- ・各論より総合講演が望ましい。脳科学入門的な話を希望。
- ・小脳と老化の関係を知りたい。
- ・「食生活と脳科学」、「コンビニエンスストアの弁当(プラスチックケース入)の電子レンジ等による加熱による脳への影響」などの研究をしている研究者がいたら、講演を聴きたい。
- ・「私が子供だった頃」を高齢者に書いてもらったら、良いコホート研究になるのではないのでしょうか。

<運営について>

- ・ドアの開閉音が気になる。講演中に入退室に配慮が欲しい(2)。
- ・ポスター展示に配布資料(レジュメ)が欲しい(2)。
- ・エアコンの風が寒かった。
- ・参加者に対し、事前に質問の仕方のマナーなどを教えてあげたほうが良い。
- ・ポスターセッション、体験コーナーの案内が分かりづらかった。
- ・デジカメでの撮影を許可して欲しい。公開・発表することで進歩すると思う。

<ご質問>

- ・高2女子です。大学で脳研究をしてみたいと思っているのですが、大学でやっていることや脳科学の分野でどのような質問を扱っているのかを知るには、今、何をすべきでしょうか。
- ・講演3について、例えば、夕飯作りのときに子供がお菓子を食べないように、目の写真を貼っておいた場合など、発達段階におけるストレスなどは起こらないのでしょうか。また、家庭内暴力などの子供に、他人の目の写真などは効果的かもしれませんが、家族の目の写真などで「慣れてしまう」ことへの線条体の影響などの研究はいかがでしょうか。
- ・定藤先生の講演で、イメージング技術の提唱において、Human ScienceとBrain Scienceの架橋をつくることが求められていることが分かったのですが、後者の分野の人々はこの架橋をつくるために何をすべきだと考えていますか？特に、<分子レベル>で何をすべきか教えてください。
- ・『『共感的痛みの回避』をしたくて、他人を助ける』とのことだが、それでは「他人を助ける」という行為は利己的なものであるように思われます。利己的な利他行為というのは矛盾しているように感じるのですが、どういことでしょうか。
- ・向社会行動は、ディスプレイの一種では？
- ・家族性アルツハイマー病になる割合はどの程度ですか。
- ・アルツハイマー発症を遅らす、なるべくさせない為に、50代の人間が日常生活で気をつけること、心がけることはなんですか。
- ・アルツハイマー病の遺伝要素が自分にあるのかを早いうちに検査で知ることはできますか。
- ・J-ADNIIは、何歳から参加できるのでしょうか。

※代表的なご質問等については、報告書にて回答していますので、ご参照下さい。

アンケートにご協力いただき誠にありがとうございました。皆様からのご要望・ご提言をよく検討いたしまして、今後の活動に活用させていただきます。
今後のシンポジウム開催については随時HPに掲載してまいります。今後とも宜しく願い申し上げます。
脳プロHP ⇒ <http://brainprogram.mext.go.jp/>